様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ４ 月 ２６ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０８０２

研究課題名（和文）アラビア文字碑刻銘文資料の精査に基づく西アジア史の研究

研究課題名（英文）A Study of West Asian History based on the investications of the Islamic inscriptional materials

研究代表者
井谷　鋼造（Itani, Kozo）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：６０１４４３０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はイスラーム時代西アジアの歴史資料に関する徹底的な基礎研究であり、この研究の成果が直ちに研究論文や著書としてとして公表･提示できる性質のものではない。しかし、本研究の実施によって、西アジア地域の碑刻銘文資料の精査に基づく歴史研究の重要で、確実な基盤が形成されたことは疑いなく、今後本研究で得られた成果を基にして、さらなる資料収集と成果発表により、イスラーム時代西アジア史の研究が発展することが期待できる。

研究成果の概要（英文）：The main aims of this study are the collections of Islamic inscriptions of both Turkey and Iran and the careful analysis of their contents from the historical point of view. By my effort these aims are almost accomplished and the brief report of this study was published with many photographical materials.This study is unique and high-graded, because in Japan there exists no studies on the Islamic inscriptions till recent days. I am the only reseacher of the Islamic inscriptions in Japan and from 1998 I visited Uzbekistan, Kazakhstan, Syria and Greece besides Turkey and made reseachs on the Islamic inscriptions of these countries.This study added many new materials in Iran to my previous collections of Islamic inscriptions and enabled me the more detailed and high level investigations on Islamic inscriptions.

研究分野：イスラーム時代の西アジア史研究

キーワード：西アジア　イスラーム時代　アラビア文字　碑刻銘文資料　現地調査　解読結果　トルコ共和国　イラン･イスラーム共和国

１．研究開始当初の背景

研究代表者は 1997 年より、西アジア、中央アジアの現地に残っていたり、博物館等に所蔵される石刻、木刻、タイル製、金属器のアラビア文字による銘文の調査をおこなってきた。その結果の一部は、「アラビア文字刻銘文資料研究序説」と題する博士学位請求論文として 2010 年に京都大学へ提出され、合格と判定された。これまでに研究代表者によって碑刻銘文資料研究をおこなってきた成果は以下の論文にまとめられている。

1)井谷鋼造「サマルカンドの通称ビービー・ハヌム・マスジドの定礎碑文について」追手門学院大学文学部『アジア文化学科年報』６、2003 年 11 月．1-20 頁。

2)井谷鋼造「トルコ共和国イスタンブル市内にあるファーティフ・スルターン・ムハンマド時代のふたつの碑文」追手門学院大学文学部『アジア文化学科年報』８、2005 年 11 月．15-25 頁。

3)井谷鋼造「トルコ共和国ニイデ市内にある西暦 13-15 世紀のアラビア文字碑文」『追手門学院大学文学部紀要』41、2005 年 12 月．1-24 頁。

4)井谷鋼造「トルコ共和国アマスヤ市内にある西暦 13-15 世紀のアラビア文字碑文」『追手門学院大学文学部紀要』42、2007 年３月．1-25 頁。

5)井谷鋼造「トルコ共和国イズニク市内にある西暦 14-15 世紀のアラビア文字碑板」『追手門学院大学国際教養学部紀要』１、2008 年１月．47-68 頁。

6)井谷鋼造「歴史的なモニュメントの碑刻銘文資料が語るもの―西暦 12-15 世紀アナトリアの場合―」『史林』91-1、2008 年１月．101-140 頁。

7)井谷鋼造「オスマーン帝国のモニュメントに残された刻銘文資料の語るもの―西暦 15-17 世紀―」『追手門学院大学国際教養学部紀要』２、2009 年１月．1-27 頁。

8)井谷鋼造「トルコ共和国エディルネ市内にある西暦 15 世紀のアラビア語石板銘文について」『追手門学院大学国際教養学部紀要』３、2010 年１月．23-48 頁。

9)井谷鋼造「トルコ共和国でのアラビア文字刻銘文資料調査補遺(1)」『アジア史学論集』４、2011 年２月．43-65 頁。

10)井谷鋼造「オスマーン朝のハーカーンたち」『西南アジア研究』74、2011 年３月．1-27 頁。

11)井谷鋼造「アーディリーヤ妃絞殺－ルーム･セルジュク朝とアイユーブ朝交渉史上の一事件」『歴史と地理　世界史の研究』230、2012 年２月．1-15 頁。

本研究は、上記の研究代表者の学位請求論文で扱った研究を基盤とし、さらに現地において実見、調査、内容分析と考察をおこなう資料の点数を増やし、網羅的に、また総括的に研究を行なうための材料を収集、検討、分析するために意図された。研究代表者の手許には本研究を実施するために必要で、かつ効率的に研究をおこなうために有益な情報が揃っており、また本研究をおこなう研究代表者には充分な経験と実績が備わっていた。

２．研究の目的

日本国内はもとより、世界的にもイスラーム世界におけるアラビア文字碑刻銘文資料の網羅的で精緻な研究は少なく、未開拓の分野である。研究代表者は、これまでの知識、経験や実績を基に、この研究を推進することが出来る世界でも数少ない研究者の一人であり、これまで未調査の地域、都市での現地調査を実施することにより、さらに多くの資料を収集し、国境横断的、網羅的で精緻な研究基盤を形成することを研究の目的とした。

３．研究の方法

３年間の研究期間内に、主としてトルコ共和国内のアラビア文字碑刻銘文資料の実地調査を行ない、参考文献を含めて最新の研究資料を入手し、それらの内容分析、検討によって、資料の内容を紹介、分析するという方法を採った。これは極めてオーソドックスな研究方法であり、本研究では、トルコ共和国以外に、イラン･イスラーム共和国内各地の碑刻銘文資料及び、ドイツ連邦共和国ベルリン市内、フランス共和国パリ市内の博物館においてもその収蔵品について実地調査を行ない、それらで得られた情報も研究成果に付加された。

４．研究成果

2015 年３月にこの研究の成果をまとめた研究成果報告書を冊子体で 100 部作成し、国内外の研究者に配布した。この報告書は全 137 頁、うち本文 90 頁、トルコ及びイラン国内（ドイツで見つけた資料３点を含む）で実地調査した碑刻銘文資料計 70 点の写真、アラビア文字の原文、日本語訳、解説を収載したものである。この報告書の内容を紹介するために、その結語を以下に引用する。

本報告書では、まず 2010 年３月のトルコ共和国での刻銘文資料調査として、イスタンブル市内４点、ブルサ市内６点、キュタフヤ市内３点、アフヨン（カラヒサール）市内２点、コンヤ市内３点、カイセリ市内とその近郊３点の計 20 点の碑刻銘文資料のアラビア文字原文、日本語訳の提示と解説を行なった。この調査は本基盤研究を実施する以前に行なったものだが、その後の情報や現時点での筆者の知識、経験を基にして、以前行なった報告を大幅に変更した部分がある。本研究を行なうことで、以前には気付かなかった点に気付いたり、新たな情報や知見を付加することで、以前の調査の内容がより充実する実例として、今回あらためて本報告書に収録した次第である。

2011 年８月の調査報告は、イスタンブル市内とその近郊で行なった調査に基づいたもので、７点の刻銘文資料をアラビア文字原文、日本語訳、解説とともに挙げているが、この調査結果はこれまでまとめて公表する機会がなかったので、今回合わせて本報告書に収録した。

2012 年８月の調査報告は、イスタンブル市内５点、エイリディル市内２点、コンヤ市内２点、アクサライ近郊の隊商宿の銘文３点、の計 12 点の刻銘文資料を収録した。この際には、上記の他にアクシェヒルとその近郊、カイセリなどでも調査を行なったが、準備の関係で、それらの調査による研究結果は本報告書に含めることができなかった。続く 2013 年８月、2014 年３月、2014 年８月のトルコ共和国における調査でも多くの刻銘文資料を調査し、解読を行ない、内容を検討したが、残念ながら、それらの成果についても本報告書に収録できなかった。これは主として筆者の側で、本研究の成果発表準備のための時間が不足していた、という原因によるものであり、本報告書に収録できなかった資料調査の成果については、今後機会を見つけて発表していきたいと考えている。

2013 年３月のイラン・イスラーム共和国における、筆者にとって初めてとなる調査報告では、その前年８月にトルコ共和国に続いて調査を行なった、ドイツ連邦共和国ベルリン市内での博物館展示資料を調査した２点を含めて、テヘラーン市内の博物館収蔵品１点、ヴァラーミーン市内１点、エスファハーン市内８点、計 12 点の刻銘文資料のアラビア文字原文、日本語訳、解説を収録した。筆者はこれまで 15 年以上にわたってトルコを中心に、ウズベキスタン（2002 年）、カザフスタン（2003 年）、シリア（2006 年）、ギリシア（2004,2006 年）でも刻銘文資料の調査を行なってきたが、イランでの調査は、これまで未知であった、新たな刻銘文資料調査、研究の魅力を感じさせてくれるものであった。

2014 年３月のイラン調査もまた、前年には見ることができなかった刻銘文資料を調査し、付加的な資料を得る目的のものであったが、エスファハーン市内 15 点、ヤズド市内２点、ヴァルザネのもの１点、シーラーズ市内１点、計 19 点の刻銘文資料の解読結果とそれらにまつわる研究を本報告書に収録した。本報告書に収録したアラビア文字碑刻銘文資料の数は全部で 70 点に達する。これらの碑刻銘文資料については、そのほとんど全ての写真を巻末に附載した。筆者がこれまでにトルコやイランを初めとする上記の国々で収集した碑刻銘文資料の中には、解読の未

だ完了していないものがかなりあり、将来機会を得て、それらの正確な解読結果や碑刻銘文資料が作られ、残された歴史的背景を考察した研究成果が発表できることを念願している。

本報告書で取り上げたトルコやイランをはじめ、西アジアのイスラーム圏諸国にはまだまだ多くの碑刻銘文資料が残されているが、政情不安や経済的な理由、文化財保護の施策等が国家規模で行なわれてこなかったという経緯から、それらの研究が網羅的に、また国境横断的に行なわれるという状況が生まれるには至っていない。歴史研究の面で碑刻銘文資料の収集、調査、研究は、書物の形で残された歴史上の記録を、現地、現場に残された現物の文字資料から補足したり、訂正したり、場合によっては書き換える可能性を持つという意味がある。碑刻銘文資料の収集、調査、研究は、これまで日本国内で培われてきた、精密で堅実な文献解読、研究に基づく手法により歴史の解明を目指すという、歴史学の研究基盤を成しているという面からも存在の意義は大きいと言えるのである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　件）

〔学会発表〕（計　　件）

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
井谷　鋼造（ITANI, Kozo）
京都大学・大学院文学研究科･教授
研究者番号：60144309

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：